

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493300238	事業の開始年月日	平成25年10月1日	
		指定年月日	平成25年10月1日	
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会			
事業所名	花物語 なかやま			
所在地	(〒226-0013)			
	横浜市緑区寺山町362-46			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成27年2月12日	評価結果		
		市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

【事業所が特に力を入れている点】

- 施設内に閉じこもりではなく、散歩や外出の機会を限りなく多くし、歩行による身体機能の低下予防や体力保持・強化に取り組んでおります。
- 室内行事等は認知機能の維持・改善策として、さまざまなレクリエーション行事を取り入れ、対応しております。

【アピールしたい点】

当施設では「有言実行」を成し遂げるため、日々全スタッフが理解・協力しながら対応しております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8F		
訪問調査日	平成27年2月23日	評価機関 評価決定日	平成27年5月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

この事業所は、JR横浜線中山駅より徒歩約10分、県立四季の森公園の入り口近くの緑豊かで閑静な住宅地の一角に位置する。当初からグループホームとして設計された木造2階建ての建物で、平成25年より事業を開始した。公園へのアクセス道路に面した高台の角地に建っていて、敷地が広く駐車スペースが十分に建物内部も広い。玄関に入ると、窓が広く見晴らしのよいゆったりとしたホールがあり、花守でもある施設長が季節の生花を飾り付けている。左手にエレベーター、中央にらせん階段があり、2階のユニットに通じている。

ユニットに入ると広く長い廊下に面して居室が並び、向かい側に職員詰所、リビング、キッチン、ダイニングの順に並んでいる。木造建築のため全体に温かみのある木の床で、定期的にワックスをかけ清掃が行き届いている。利用者は、広いリビングで他の利用者や職員と一緒に雛祭りのちぎり絵を貼ったカレンダーや野鳥のレリーフなどを作ったり、ダイニングでのんびりとお茶を飲みながらテレビを見て過ごしたり、訪れた家族と談笑したりしている。ダイニングのテーブルは高さが調節でき、足置き台や椅子にはマットを敷いて利用者の身体に合わせて座り心地を良くしている。

【理念の実践と利用者の自立支援】

職員は「個々の利用者を大切に、思いを理解して、いつでも笑顔で、チームワークで対応する」という趣旨の理念を基に、施設長の定めた目標に向けてサービスを実施している。ケアワーカーとしてプロ意識を持ち、良いサービスを提供して利用者から認められることでモチベーションを高めている。利用者の自立性を高めてADLや認知症の症状改善に向けて支援している。

利用者は日常的に、職員の見守りやサポートを受け、ちぎり絵や切り絵、書道などのレクリエーション、公園への散歩や遠方への外出、祭りや地域のイベントへの参加などアクティビティを積極的に行っている。また、調理の手伝いや盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなどで利用者が体を動かすことにより、睡眠が十分とれて、食事、入浴、排泄、自室の清掃などを自力で行い健康的な生活を営めるように自立支援を行っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	花物語 なかやま
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	おおむね実施できている	理念は、初任者研修や毎朝の申し送りでも読み上げるなどして共有している。管理者は、理念を基に「優しい心と態度、丁寧な言葉遣いで対応致します」というモットーをつくり、職員に周知徹底して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	実施できている	自治会に加入し、地域の神社の祭りの際には神輿が事業所前を通るので見物している。近隣の保育園の園児が散歩の帰りに施設に寄って交流している。美術大学の学生がボランティアとして似顔絵を描きに来ている。オカリナとハーモニカ演奏のボランティアが月替わりで来てくれている。駅近くの中山祭りに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実施できていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施している	運営推進会議は2か月ごとに行っている。参加メンバーは、利用者家族、自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員、施設長などである。すべての家族が年間2回以上出席できるように、開催曜日を毎回変える工夫をしている。会議では事業所の報告と質疑応答を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的には実施していない	介護事業指導課には申請時に窓口に行き、相談をしたりアドバイスを受けたりしている。地域包括支援センターとは入居についての問い合わせを受けたり運営推進会議を通じて情報交換をしたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる	契約書に身体拘束排除について記載し契約時に説明している。研修に参加した職員が研修内容を報告し、他の職員にも周知している。玄関は日中は施錠していない。フロア入り口は自由に入れるようにし、外に出る場合はパスワードで管理している。利用者が外出を希望する時は、職員が付き添って対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者のみ実施している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させている	全ての家族が少なくとも年間1回は運営推進会議に出席しており、意見を言ったり質問する機会が多い。家族の面会も多く、苦情や要望は、玄関にある意見箱に入れてもらうようにしている。職員の言葉遣いについて意見があったので皆で話し合って声かけや話し方を是正した。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	おおむね反映させている	管理者は、毎年職員の個別面談を行い意向や要望を聞いている。フロア会議を2か月に1回行って意見交換と情報共有を行っている。カンファレンスで夜勤業務の状況把握や介護方法の統一について意見交換を行い、マニュアルを作成して業務の流れを整備した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	おおむね取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている	利用者の馴染みの神社にお参りに行ったり、以前に通った理容院や駅前の商店街に買い物に出かけたりしている。利用者が知人や友人からの年賀状や手紙の返信を書いた時に、職員が依頼を受け、ポストに投函をしている。昔馴染みや友人の来訪については、電話で家族に確認後、リビングや各自の居室に案内してお茶を出すなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている	利用者の思いや意向は、日頃言葉を交わす中で、表情や態度を観察して把握している。聴力が低下した方にはジェスチャーや表情を豊かにして意思の疎通を図っている。日々の申し送りでケアの方法で気づいた点を話し合っ改善を図り、利用者への個別対応方法の一覧表を作成し、サービスに活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している	アセスメントによって利用者の生活歴やADL、本人・家族の希望などを把握している。その後必要に応じて情報を追加している。ケアプランは本人の自立に向けた目標を設定し、社会資源の活用も取り入れて作成している。職員は、ケアプランのサービス項目の実施を支援経過に記録している。記録を基にモニタリング・評価を作成し、プランを6か月または状況に変化に応じて随時見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源がよくわかりません		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している	協力医（内科）の往診は月1回で、ユニットごとに利用者全員を対象としている。個別の往診は必要に応じて随時行っている。看護師が週2回、利用者の健康チェックを行っている。皮膚科や眼科などは基本的に家族対応だが、場合によっては施設長が通院支援している。歯科医は毎週来訪し、口腔ケア、歯科治療、入歯調整を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	努め、行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる	「利用者の急変時や重度化した場合等における対応に係る指針」を契約時に説明し、同意を得ている。今のところ医療の支援体制が整っていないため看取りは行わない方針である。職員には指針および方針を周知している。重度化して医療行為が必要になった場合は、施設や医療機関を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	おおむね身に付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	まだまだ不足している 地域との協力体制が不足している	防災訓練は、年2回消防署員の立ち会いで、利用者也参加して実施している。うち1回は夜間想定でユニットごとに避難訓練を行っている。災害備蓄（飲料水・食料）は、法人本部が手配し、点検もされている。カセットコンロ、保温シート、防災ずきん（座布団兼用）は事業所が独自で備えている。	自治会長や近所の方へ訓練への参加協力を依頼中です。今後も継続的に声かけをして協力を得ることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している	職員は、接遇や個人情報保護の研修を受けている。排泄や入浴の誘導は、さりげなく行い言葉遣いに気を付けている。職員への指導は、「優しい心と態度、丁寧な言葉遣い」というモットーに立ち返るように話している。個人情報を含む書類は、事務室のキャビネットに施錠して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	実施している	専門業者に、メニュー付きの食材の配達を依頼している。減塩食の別メニューもある。メニューに副菜を2品加えたり、夕食にはデザートを加えたりしている。利用者の状況に合わせて、おかゆ、とろみ食を提供している。利用者が味噌汁を作ったり盛り付け、配膳、食器洗いなど積極的に手伝いに参加している。季節の行事食の提供や外出に出かける機会もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	実施している	排泄チェック表などをもとに、タイミングを見て声かけや誘導をしている。トイレにシャワーが設置され、失敗したときなどでもプライバシーを守りながら対応できる。本人から失敗の申告があり、さりげなく処理することもある。リハビリパンツの方が8名ほどいたが、きめ細かい誘導などで布パンツなどに改善され、現在は2名に減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	実施している	1週間当たりの入浴回数は原則として2回となっているが、希望があれば回数や時間を柔軟に対応している。同性介護の希望者が各フロア2名ずつおり、毎回対応をしている。入浴剤や温泉の素などを使って変化をつけてたり、菖蒲湯や柚子湯などで季節感を楽しんでもらったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援している	天気がよければ、近くの公園へ散歩に出かけている。利用者の要望に合わせて、個別対応をしたり集団で行ったりしている。工場見学などを企画して全員で出かけている。楽しみにしている方が多く、「どこが良かった」「楽しかった」などの感想も聞かれる。遠方への外出には車椅子を使う方もいる。新しいレストランがオープンした時に食事に行ったり、毎週午後のティータイムに出かけたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施している	共有部分は、中央のキッチンを含んでリビングとダイニングに分かれており、利用者が思い思いの場所で過ごすことができる。キッチンからリビングを見通しにくいので、鏡を設置して仕事をしながら見守りできるよう工夫されている。廊下も十分広くゆったりしている。清掃は毎朝職員と利用者が一緒に行っている。専門業者が床のワックスがけを2か月ごとに行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	実施している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施している	居室は、利用者は寝具や衣服をはじめ、使い慣れたもの、馴染みのものを持ち込んで住み心地よくしつらえている。入り口の横には、小さな飾り棚があり、それぞれが気に入っている写真や作品を飾っていて個性がある。部屋で点灯すると連動して氏名の所に明かりが付くようになっていて、一目で入室中だということが分かるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	実施している		

目 標 達 成 計 画

事業所名 花物語 なかぞえ作成日 平成27年6月5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	実践を通じて積み上げている認知症理解や支援の方法を地域の人々に向けte活かしたいこと	小さな取り組みでもいかに地域の人々に向けて、認知症の人々の理解や支援の方法を話し合う場を設けた。	地域ケアワーカーが互いに相談をし、どういった場、内容が適しているか検討したい。	H27.6. ~ H27.12.31
2	12	スタッフが退職者になるのが多かった。今年度は退職者を減らし、やりがいや向上心をもってもらえること。	退職者を今年度は3人以上減らすようにする。	スタッフそれぞれに担当してもらおうことを決め、毎月、活動内容も報告してもらい評価したい。	H27.4 ~ H28.3
3	13	研修への参加は昨年度は少ないように感じた。	今年度はシフト調整し、研修に積極的に参加してもらい、スタッフのモチベーションを上げる。	12と重なった退職者を減らし、シフトに余裕を作り、研修への参加を促す。研修内容に常に行ない、会議にて研修報告を行ない、互いに向上心を持つこと。	H27.6 ~ H28.3
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。